

FOMCを受けての日米株式・リート市場

米国市場はFOMC以外の悪材料も重なり下落

2023年3月23日

FRBは金融不安よりインフレの方が問題との認識で利上げ継続

FRB（米国連邦準備制度理事会）は3月21日～22日（現地）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利の誘導目標レンジを4.50～4.75%から4.75～5.00%へ引き上げることを決定しました。0.25%ポイントの利上げ幅は前回（1月31日～2月1日）と同じで、市場コンセンサス通りです。

結果発表直後、米国株は上昇する局面もありましたが、取引終了間近に下落し、NYダウなどの主要株価指数の下落率は前日比1%台後半に達しました。パウエルFRB議長がFOMC後の会見で、金融不安よりもインフレの方が問題との認識を示したことや、年内の利下げに否定的だったことが影響したとみられます。また、イエレン財務長官が議会の公聴会で、預金保険の全面的な拡大を否定したことも株価下落を加速させたようです。当面の米国株は金融不安が沈静化するのを待つ局面となりそうです。日本株は金融緩和が継続しており、かつ金融システムも相対的に安定しているため、底堅く推移する可能性が高そうです。

米国リート指数は前日比4%近い大幅な下落となりました。金融不安による銀行の貸出態度の厳格化観測などが、米国株以上に米国リートに悪影響を与えるとの懸念があるようです。しかし、昨年来、米国リート指数と逆行して動くことが多い米10年国債利回りが3月に入り低下していることから、米国リートの下落余地は小さいと考えられます。日本のリートは日本株同様、相対的に環境が安定しているほか、債券との利回り差が大きいこともあり、投資家に選好されやすい状況とみられます。

日米主要株価指数

(2022年10月初～2023年3月22日)



※起点を100として指数化

(出所) ブルームバーグ

日米リート指数

(2022年10月初～2023年3月22日)



※起点を100として指数化

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management